

| | | | | | |
|------------|--|------|---------------------------------------|-------|-----|
| 科目分類 | スキル科目群－情報解析科目 | | | 対象学年 | 1 |
| 授業科目 | 社会統計学 I | | | 学期 | 春学期 |
| 担当教員 | 伊藤 豊 | | | 選択/必修 | 選択 |
| 科目コード | H901201 | 授業形態 | 対面での実施を予定している。 数回はオンデマンドを実施することがある | 単位数 | 1.0 |
| 授業の概要・到達目標 | 現代の社会科学および社会工学には、統計的手法および数学的手法は不可欠な要素となっている。従って、社会科学(社会工学)を学ぶ、あるいは研究するに際し、統計学や数学を使うことを避けることはできない。本講義では、特に博士前期課程(修士課程)1年次で、学部在籍時に基礎的な統計学の知識を習得していない学生の、社会科学(社会工学)分野における学習・研究に最低限必要な統計学的知識の習得を目指し、それらを速習する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 定量調査における調査 3. 社会調査のプロセス-アイデアから後片付けまで 4. 社会調査のデザイン -因果分析を念頭に調査設計をするには- 5. 実査の方法1 -どのようなデータ収集法を選べばいいの- 6. 調査票の作成 -質問の作成からレイアウトまで- 7. サンプリング -対象者はどのように選べばいいの- 8. 調査の実施 -郵送法 個別面接法 インターネット調査- 9. データの電子ファイル化 -正確性と一貫性- 10. データの基礎的集計 11. 調査倫理とデータの管理 12. 社会調査の意義と今日的課題 13. 具体的な調査の事例紹介(1) 14. 具体的な調査の事例紹介(2) 15. 総括 まとめ | | | | |
| テキスト | 特に使用しない | | | | |
| 参考文献 | | | | | |
| 評価方法 | 講義中の参加態度、毎回の講義の課題、最終レポートで評価する | | | | |
| 参考URL | | | | | |
| その他 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|------|---------------------------------------|-------|-----|
| 科目分類 | スキル科目群－情報解析科目 | | | 対象学年 | 1 |
| 授業科目 | 社会統計学Ⅱ | | | 学期 | 秋学期 |
| 担当教員 | 伊藤 豊 | | | 選択/必修 | 選択 |
| 科目コード | H901202 | 授業形態 | 対面での実施を予定している。 数回はオンデマンドを実施することがある | 単位数 | 1.0 |
| 授業の概要・到達目標 | <p>現代の社会科学および社会工学には、統計学的手法および数学的手法は不可欠な要素となっている。従って、社会科学(社会工学)を学ぶ、あるいは研究するに際し、統計学や数学を使うことを避けることはできない。本講義では、特に博士前期課程(修士課程)1年次で、学部在籍時に基礎的な統計学の知識を習得していない学生の、社会科学(社会工学)分野における学習・研究に最低限必要な統計学的知識の習得を目指し、それらを速習する。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>前期に実施した下記の内容に基づいて、学生の興味関心に応じて、論文の輪読、研究内容、研究計画のプレゼン発表を実施する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 定量調査における調査 3. 社会調査のプロセス-アイディアから後片付けまで 4. 社会調査のデザイン ー因果分析を念頭に調査設計をするにはー 5. 実査の方法1 ーどのようなデータ収集法を選べばいいのー 6. 調査票の作成 ー質問の作成からレイアウトまでー 7. サンプリング ー対象者はどのように選べばいいのー 8. 調査の実施 ー郵送法 個別面接法 インターネット調査ー 9. データの電子ファイル化 ー正確性と一貫性ー 10. データの基礎的集計 11. 調査倫理とデータの管理 12. 社会調査の意義と今日的課題 13. 具体的な調査の事例紹介(1) 14. 具体的な調査の事例紹介(2) 15. 総括 まとめ | | | | |
| テキスト | 特に使用しない | | | | |
| 参考文献 | | | | | |
| 評価方法 | 講義中の参加態度、毎回の講義の課題、最終レポートで評価する | | | | |
| 参考URL | | | | | |
| その他 | | | | | |

| | | | |
|------------|---|-------|-----|
| 科目分類 | | 対象学年 | 1 |
| 授業科目 | 社会調査手法演習 | 学期 | 春学期 |
| 担当教員 | 角 能 | 選択/必修 | |
| 科目コード | H901203 | 授業形態 | 単位数 |
| | | | 1.0 |
| 授業の概要・到達目標 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量的調査・質的調査・歴史社会学の方法論を駆使した実証研究の成果を輪読する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面でどのような方法論を用いることが適しているのか、それぞれの方法論の意義と限界を理解する。 ・社会理論を実証研究にどのように応用するかを学び、社会学的な想像力、厚みのある研究とは何かを理解する。 ・自身の論文作成に、輪読した文献で学んだ方法論を応用できるようになる。 | | |
| 授業計画 | <p>第1回～第7回：文献輪読 第8回：研究報告 第9回～第14回：文献輪読 第15回：研究報告</p> | | |
| テキスト | 初回授業時に紹介する。 | | |
| 参考文献 | 筒井淳也・前田泰樹,2017,『社会学入門』有斐閣. 稲葉振一郎,2019,『社会学入門 中級編』有斐閣. 日本教育社会学会編,2017,『教育社会学のゆくえ1 学問としての展開と課題』岩波書店. 森岡清志,2007,『ガイドブック 社会調査』日本評論社. 今田高俊,2000,『社会学研究法 リアリティの捉え方』有斐閣. | | |
| 評価方法 | レポート（研究計画の提出）+授業中の報告+平常点 | | |
| 参考URL | | | |
| その他 | | | |

| | | | | |
|------------|---|------|-------|-----|
| 科目分類 | スキル科目群-情報解析科目 | | 対象学年 | 1 |
| 授業科目 | フィールド調査演習 | | 学期 | 春学期 |
| 担当教員 | 有田 昭一郎 (アリタ ショウイチロウ) | | 選択/必修 | 選択 |
| 科目コード | H901204 | 授業形態 | 演習 | 単位数 |
| | | | | 1.0 |
| 授業の概要・到達目標 | <p>フィールド調査（フィールドワーク）は、地域の実情や課題を把握するために欠かせない研究の基本的活動である。本演習は中山間地域の暮らしや生業を理解するため、様々な人々へのインタビュー調査を行い、地域資源を持続的に活用するための管理方法や技術を学ぶ。</p> <p>また、各種統計や地図データなどを使用して、地域の状態を分析する能力を身につける。</p> <p>Keyword：課題設定、調査設計、調査マナー、インタビュー、分析、暮らし、しごと</p> | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 中山間地域への理解を深める 2. フィールド調査の目的と設計① 事前準備の方法 3. フィールド調査の目的と設計② フィールドノートの使い方 4. 地図や統計データから地域の特徴を把握する 5. フィールドワーク 現地踏査 記録方法① 6. フィールドワーク 現地踏査 記録方法② 7. フィールドワーク インタビュー調査① 8. フィールドワーク インタビュー調査② 9. フィールドワーク インタビュー調査③ 10. フィールドワーク インタビュー調査④ 11. フィールドワーク インタビュー調査⑤ 12. 調査まとめ、分析① 13. 調査まとめ、分析② 14. 調査まとめ、分析③ 15. 発表・対話 <p>* 詳しい日程、内容、必要な準備は、説明会時に伝達する。</p> | | | |
| テキスト | テキストは使用しない。授業時に適宜資料を配付する。 | | | |
| 参考文献 | 佐藤郁哉 フィールドワーク-書をもって街へでかけよう 新曜社 吉本哲郎 地元学をはじめよう 岩波ジュニア | | | |
| 評価方法 | レポート（60%）、調査活動への姿勢と記録（40%） | | | |
| 参考URL | | | | |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習実施地域（フィールド）は原則浜田市内を想定する。 ・ 夏季休業中の集中講義として開講する。 ・ 授業期間中の昼食（3日分）は持参、または自己負担とする。 | | | |

| | | | | | |
|------------|--|------|----|-------|-----|
| 科目分類 | スキル科目群-情報解析科目 | | | 対象学年 | 1 |
| 授業科目 | GIS研究 | | | 学期 | 春学期 |
| 担当教員 | 松田 善臣 | | | 選択/必修 | 選択 |
| 科目コード | H901205 | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1.0 |
| 授業の概要・到達目標 | <p>GISの活用範囲は多岐にわたり、社会科学においても、GISは研究上のインフラとして位置づけられるようになった。そのため、GISを用いて分析を行うための知識や技術を習得することは、地域研究を行うものにとって必須のものとなる。本講義では、さまざまな分野において活用されているGISの事例（特に、人文・社会科学研究での活用事例）を研究し、それらを通してGISの役割と重要性について理解する。さらに、受講生各自の研究課題におけるGISの活用法について検討する。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>授業の内容</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 GISの概念と原理1</p> <p>第3回 GISの概念と原理2</p> <p>第4回 GISの技術1</p> <p>第5回 GISの技術2</p> <p>第6回 ビジネスにおける活用事例1</p> <p>第7回 ビジネスにおける活用事例2</p> <p>第8回 行政における活用事例1</p> <p>第9回 行政における活用事例2</p> <p>第10回～第14回 GISの活用事例</p> <p>第15回 最終発表</p> <p>受講生の興味・関心に応じて、扱う事例を決定する。</p> | | | | |
| テキスト | テキストは指定しない。 | | | | |
| 参考文献 | 適宜、紹介する。 | | | | |
| 評価方法 | 毎回の報告内容（60%）、最終報告（40%） | | | | |
| 参考URL | | | | | |
| その他 | 対面授業 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|------|----|-------|-----|
| 科目分類 | スキル科目群-情報解析科目 | | | 対象学年 | 1 |
| 授業科目 | GIS特別演習 | | | 学期 | 秋学期 |
| 担当教員 | 松田 善臣 | | | 選択/必修 | 選択 |
| 科目コード | H901206 | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1.0 |
| 授業の概要・到達目標 | <p>本演習では、GISソフトを用いて地域分析を行うためのスキルを習得することを目的とする。地域分析においてGISが実際に活用されている事例を用いて、データの取得から加工、分析、分析結果の効果的な表現方法といった一連の操作方法を、繰り返し演習を行うことで身につける。また、これらの事例で用いられる分析手法の理論的背景についても理解する。これらの演習を通して、各自の研究課題の中でGISをどのように活用できるかを検討する。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 GISの基礎 第2回 QGISの基本操作 第3回 地図の表示・レイアウト1 第4回 地図の表示・レイアウト2 第5回 データ作成・編集1 第6回 データ作成・編集2 第7回 地図データの取得 第8回 ベクタ解析1 第9回 ベクタ解析2 第10回 ベクタ解析3 第11回～第14回 総合演習 第15回 課題発表</p> | | | | |
| テキスト | テキストは指定しない。 | | | | |
| 参考文献 | 適宜、紹介する。 | | | | |
| 評価方法 | 課題（100%） | | | | |
| 参考URL | | | | | |
| その他 | <p>「GIS研究」を修得済みであることが望ましい。 対面授業</p> | | | | |